

Yawaragi

Gakushuin Women's College

VOL.23
2020年度



2021年3月

Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第23号

2020年度

Contents

- P. 2 目次
- P. 3 学長挨拶
- P. 4 新学部長挨拶
- P. 5 学習院女子大学新1号館の竣工
- P. 6 特集：学習院女子大学と新型コロナウイルスとの闘い ～「トレードオフ」への対応～
- P. 7 特集：学習院女子大学と新型コロナウイルスとの闘い ～授業編～
- P. 8 特集：学習院女子大学と新型コロナウイルスとの闘い ～Linking プロジェクト編～
- P. 9 2020年度 特別授業の紹介
- P. 10 学習院女子大学学会より
- P. 12 新任専任教員紹介
- P. 13 新任専任教員紹介／令和2年度 客員研究員受入一覧
- P. 14 国際学研究所だより
- P. 15 留学生報告／海外留学報告
- P. 16 国際交流推進センター行事報告
- P. 17 留学制度について
- P. 18 学習院父母会の近況報告
- P. 19 輔仁会団体紹介
- P. 20 「和祭」を振り返って
- P. 21 学習院女子大学の就職力
- P. 22 内定者からの声
- P. 23 キャリア支援部より
- P. 24 図書館からのお知らせ
- P. 26 専任教員著書の紹介
- P. 27 学習院女子大学専任教員紹介
- P. 28 学習院女子大学データ
- P. 29 草上会の活動と現状
- P. 30 学生総合補償制度のご案内
- P. 31 Topics



学長挨拶

学習院女子大学長 神田 典城



皆さんごきげんよう。

この原稿に向かっている今は十二月の中旬です。これを皆さんが読まれている頃どうなっていることか全く予測が付きませんが、現在新型コロナウイルスの感染者数が日々過去最高値を更新しつづけています。そんな中で、世間からは大学に対して「何故対面授業をしないのか」

という声が上がってきます。しばしば「高校以下はやっているのに」とまるで大学がサボっているかのような非難めいたニュアンスを伴います。併せて遠隔授業では不十分な教育しかできないといった趣旨の声も上がりがちです。

そこで、本学の父母保証人の皆さんにはこの場をお借りして、一体何が起こっていたのか、私からご説明申し上げようと思います。本学の具体的な方策については、他の然るべき部門から説明がありますので、そちらをご覧ください。

まず、高校以下と大学では現場のありようが全く異なります。例えば大学では授業ごとにその科目に割り当てられた教室で受講し、終わったら次の科目に割り当てられた教室に移動します。そこで、一つ授業が終わるたびに廊下が各教室から吐き出されてきた学生でたちまち密な状態になり、これをコントロールするのは難しいでしょう。しかも次の教室で使うのは誰が使ったかわからない机と椅子です。また、授業ごとの履修者数も百人を超えるものはいくつもありません。教室の収容数ごとに安心安全な環境を実現するには、半数とか三分の一とか履修希望者を相当数制限

しなければなりません。

ほんのこれだけの例でも安心安全な環境を維持しつつ対面授業を実施することの困難さの一端が想像していただけるかと思います。私たちは、教育機関として命がけで授業を受けるといふような状況を学生に強いるようなことがあつてはならないと考えます。

さて、その一方で遠隔授業です。実は教員も大変なのです。教員が自ら言う和自己弁護的に聞こえるといけませんから、授業を担当していない私が説明します。学生たちの間にも対面・遠隔それぞれに賛否があります。教員も様々で、IT機器を駆使することに馴染んだ教員もあれば、私のように一切使った経験のない教員もいます。また授業内容も遠隔に向けたものもあれば、向かないものもあります。しかも十分な準備期間があればまだしも、今回はいきなりこの様な事態に直面したわけです。教員は前年度のうちに次年度の授業の準備を終えて新学期に臨みます。それが、新学期が始まるといきなり全部遠隔と宣言されました。「聞いてないよー」というのが本音でしょう。大学における授業のあり方には長い歴史があります。古代ギリシアでプラトン

のアカデメイアが創立されてからでも二千年を超えます。今日の大学における「普通の」授業の裏側には、その間に蓄積されたノウハウがあるのです。泳ぎを知らない陸上選手が準備万端で競技場に來たら、そこがプールになっていて泳げと言われたところでも想像してみてください。対面授業の良さは私たちが一番良く知っています。けれどもまた、遠隔でやってみたらとても良いという例があるのも事実です。そして、何の障りもなく生き生きと遠隔授業の特性を生かしている教員もあれば、ストレスに苛まれている教員もいるのです。

私たちは今、未曾有の大災害と対峙しています。ここですべきことは、既成の枠組みに捉われないこと、最大限の安全性を見極めながら対面の授業を確保し、遠隔の特性を生かす等、新たなノウハウを作り出すことなのです。そして、私たちは今や着々と新しいスタイルを構築しつつあります。これからの「学女」をどうかお見守りください。

さて、ところで私はこの三月末を以て任期満了となります。四年間ありがとうございました。今年度の一年生と一度も顔を合わせることもなく終わるのが心遣いです。

新学部長

挨拶

福島 直恭



2020年度から国際文化交流学部の学部長に就任した福島直恭と申します。どうぞよろしくお願います。

わたしがこのキャンパスに着任したのはもう30年以上前で、その頃は学習院女子大学はまだなくて、前身の学習院女子短期大学でした。女性だから大学教育も2年あれば十分だなどという前時代的で差別的な考え方はもう通用しなくなってきました。このままでは将来が絶望的だということ

で、わたしが着任したちょうどその年の教授会で「4年制の女子大学を目指そう」という決議が、夜まで続いた激論の末になされました。現在の本学の歴史の実質的な第一歩だったと思います。そしてその8年後に学習院女子大学が開学しました。短大が4年制大学に転換した例は多いですが、本学のように短大の閉学と女子大の開学をほぼ一気にやってしまったのはそれほど多くないと思います。スタッフに大幅な入れ替えがなかったこともあり、開学当初の学習院女子大学は学短（ガクタン）をそのまままるごと受け継いだという感じでしたが、その後20年以上を経過して、現在はその頃ともかなり違う大学になりました。

でも、4年制の女子大学への改組を目指していた頃の短大教職員たちの未来像から大きくかけ離れてしまったということは決してありません。あの頃思い描いていた理想の姿に、開学当初に比べても、現在はより近い形の女子大が実現できているとわたしは感じています。そうなれたのは、女子大の学生やスタッフのたゆまぬ努力に加えて、学習院女子短大の知名度や実績があったからだと思います。

でもいつまでもそれに頼ってはいられません。学習院女子短大が日本社会の人々の記憶から消えていく日もそう遠くはないでしょう。人間の一生にたとえれば、本学はまだ成人して間もない若者です。ほとんどすべてはこれからという段階です。

短期大学に対して「なぜ短大なのか？」という問いが30年前に多かったのと同じように、4年制女子大に対して「なぜ女子大なのか？」という問いが現在では多く聞かれます。自然科学、社会科学、人文科学のどの分野のどの学問領域にしても、特に女性が学ぶべきだという学問とか、男性は学ぶべきではないという学問はひとつもありません。本学が女子大であることを、本学の研究・教育内容と直接結びつけて正当化することはできないということです。ただし、一緒に研究したり、学習したりする集団のメンバーについて、ジェンダーの側面からの制約を求める学生とか、そういう制約下での活動の方がより有意義な研究・学習活動がしやすいと考える学生がいることも事実です。近頃は日本も男女平等の社会になったなどといわれますが、現在の日本社会でも、さまざま

まな面において女性が不利な立場であることは確かです。だから少なくとも社会に出る前までの期間に、女性にそのような環境を提供する必要性もあるとわたしは考えます。

現代日本社会の女性にとつては、特に社会人として生きていく上でのハンディはまだまだ大きなものです。同じような社会的地位にいる、年齢や潜在能力の等しい女性と男性を比べたら、平均的に女性の方がそうなるまでにより多くの努力をしてくれていると思います。本学の学生は、あと数年でそういう厳しい社会に出て行かなければなりません。ある程度守られた環境で、安心して将来の準備をする期間はそう長く残されていません。ですから是非、この貴重な準備期間を大切にしてください。この大学と同様に、学生の皆さんもほとんどすべてはこれからです。一番重要なことは「どういう女性になって社会に出て行くか」ではなくて「どういう人間になって社会に出て行くか」ということです。本学の卒業生達の社会における活躍によって、将来、女子大なんか必要ない社会が到来することを願っています。

学習院女子大学新1号館の竣工

副学長 越塚 美加

令和2年度は想像を超えたコロナ禍の中で、学生の皆様にはキャンパスで学習活動、課外活動等を積極的に行い、またそれらを通じて直接友情を育む機会をなかなか提供できず、大学と致しましても大変心苦しい日々でした。Zoomでは遠距離からの受講やイベント参加が可能である一方で、偶然一緒になった人同士で気軽に意見交換したり、友情が育まれたりする機会の多くが失われたことについては大変残念に思っています。

しかしながら、そのような中でも戸山キャンパスを安全かつ快適に使っていただくために、さまざまな工事やその計画を進めております。戸山キャンパスの歴史は古く、建物の中には耐震補強工事が必要な建物も含まれております。したがって、中長期的にキャンパス計画を立て、建て替え、改修、補強等の工事を実施していくことは安心できる環境を提供する上で重要なことであると認識しております。

昨年7月に竣工致しました新1号館は、長らく校舎等を建築するために取りおいていたキャンパス西側にあたる土地に新築した建物です。この1号館建築計画は、4号館の耐震補強改修のための工事を計画しました時に、学習院女子中・高等科との共有スペースとして展示室等の新設を決定し、それに伴うスペース不足を補うために立案されました。昨年度、キャンパスに通っておられた皆さんは工事のための柵の中で何が起きているのか興味を持たれた方も多いと思います。簡単にどのような施設が入っているのかご紹介いたします。

1号館1階部分は学生の皆さんが利用することが多い、各学科事務室、大学院事務室、保健室、面談室等共用部

分で占められています。建物が正門に近いこともあり、立ち寄りやすいのではないかと思います。また、2階から4階は本学のほぼ半数の専任教員の個人研究室となっておりますが、こちらも皆さんが相談等の折に訪れやすい場所になっているはずです。そして、1号館入り口の左手は面談等の待合室として自由にお使いいただけます。

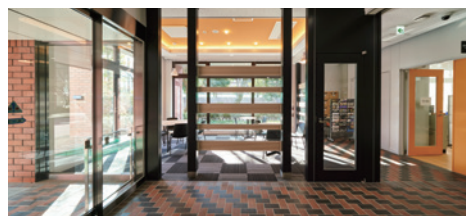
1号館の外装は戸山キャンパスに共通のレンガ造りとなっております。一方で、内装はこれまですべての教員の研究室がございました4号館とは趣を異にしており、現代的な設計や色使いになっております。女子大の正門から最新の現代的な建物(1号館)、中間に属する建物(2号館、互敬会館等)、そして令和3年度に耐震補強工事を行う4号館が伝統的な歴史的な建物という形で、現在から過去へ建物の歴史をたどることもできます。特に4号館は明治期に建てられたもので、古い意匠が多く残っております。1号館との対比を直接感じ取っていただける公開の日を楽しみにお待ちしております。

キャンパスの緑化整備も戸山キャンパスの落ち着いた雰囲気醸成に重要な位置を占めております。正門からの桜並木は樹木の老化や病気の発生により、治療や植え替えを施し、以前の桜並木とは異なる様相を呈しております。樹木の生長には時間を要しますのでなかなか以前のような桜のアーチを描くところまで至りませんが、長い目でお見守りいただきたく存じます。

末筆ながら、新1号館の設計を行っていただきました前川建築設計事務所様ならびに工期を通じて安全な工事を行っていただきました戸田建設株式会社様には、この場をお借りしてご尽力に心よりの御礼を申し上げます。



新1号館外観



1階ラウンジ



4階屋上デッキ

学習院女子大学と 新型コロナウイルスとの闘い ～「トレードオフ」への対応～

荘林 幹太郎（副学長 国際コミュニケーション学科 教授）



昨年の1月末に学長を本部長とするコロナ対策本部が立ち上げられて以来、コロナ禍の中で、学生の皆さん及び教職員の安全を最優先しつつ、高等教育機関として学生の皆さんへ高品質の教育を提供し続ける、このことが全教職員の共通の目標でした。この間学生、父母保証人の皆様にさまざまなご負担をおかけしたことを申し訳なく思います。

共通の目標のもとでの1年間、私たちが直面せざるを得なかったのは、さまざまな「トレードオフ」でした。トレードオフとは、ある選択をすると別の選択ができなくなるような状態を言います。「あちらを立てれば、こちらが立たず」のような状況と言ってもいいかもしれません。典型的には、遠隔授業を選択すると、感染拡大に対する安全性は高い水準に維持できるのに対して、対面授業における学生、教員間の複層的な議論が難しくなる、といった状況です。

そこで、私たちはこの1年の間、トレードオフの関係性の間でのバランスをとりながら、同時に、トレードオフの解消や軽減を図ることに全力をあげてきました。当面は、感染の完全な収束を見通せない以上、このような対応が今後とも必要になると思います。

そこで、ここではいくつかの問題に対して私たちがどのように対応してきたかを皆さんと共有したいと思います。この難しい局面を皆さんとともに乗り越えていくためには、私たちの実施してきた取り組みの背景を知っていただいたうえで、皆さんとのコミュニケーションをさらに強化することが重要と考えるからです。

春学期の最初に直面したのは、遠隔授業の開始時期に係るトレードオフでした。3月中旬に学期開始を4月20日まで遅らせることを決定していましたが、多くの他大学と同様に5月の連休明けまでさらに開始を遅らせるという選択肢もありました。遅らせることにより、遠隔授業受信環境が整わない学生に対する支援策を整備したあとで授業を開始できるメリットもありました。一方で、感染拡大の収束が見られない状況だからこそ、一日も早く授業を提供して学生の皆さんの学びの意欲にこたえるべきとの思いも強

く私たちにはありました。そこで、4月20日の開始を選択し、そのうえで、受信環境が十分でない方の受講を考え、1回当たりの遠隔授業のデータ通信量の上限値を設定することとしました。そのため、基本的には遠隔授業の際のビデオをオフにすること、講義資料を画面共有する方法を原則とすること、などを講義の共通ルールとして決めました。授業開始時期を優先し、そのかわり講義方法の柔軟性を一部減ずるという方法をとったわけです。その後、5月に全学生に対して遠隔授業受講支援のための一律6万円の給付と経済的に困難な状況にある方に対してのモバイルwi-fiルーターの貸与を開始したのち、1回当たりの授業におけるデータ通信量の拡充を行い、動画利用などの授業の幅を拡大しました。

もう一つの事例は、秋学期のハイブリッド授業に関してです。対面授業の再開については学生の皆さんの間に多様な考え方がありました。対面授業を強く望む声の一方で、遠隔授業の継続を求める声も多くありました。私たちは、このことで皆さんの間に「分断」が生じてはならないとの思いから、対面授業科目についての参加の判断は学生に委ね、登校を望まない学生向けにZoomにより同時配信する方法を選択しました。対面授業の同時配信は、Zoomカメラの位置の変更や、共有画面とカメラ画面の入れ替えなど、講義中に頻繁に各設定の変更を行わなければなりません。ここでも、学生の皆さんの間の多様な考え方を尊重するために、授業方法の制約の増加を受け入れることとしました。それによる授業の質に大きな影響がないように、マイクの性能や位置についてのテストなどさまざまな対策を講じました。

来年度の春学期はすでに公表している通り、教室密度50%を確保できる講義については原則として対面授業とすべく準備を進めています。その過程でやはり多くのトレードオフに直面せざるを得ないと思います。その都度、これまでの皆さんの協力の下で培ってきたさまざまな経験を活用しながら、トレードオフの関係性を可能な限り適切なものにする努力を教職員一丸となって続けていきます。

学習院女子大学と 新型コロナウイルスとの闘い ～授業編～

武井 彩佳（教務部長 国際コミュニケーション学科 教授）



新型コロナウイルスがもたらす混乱を、日本社会がまだ漠然としか予測できなかった2020年2月頃のことです。大学教務に関わる者として、私は急速に雲行きが怪しくなっていくのを日々感じるようになりました。それは、最初小さな灰色の雲が地平線から昇ってきて、すぐに大きな黒い雲となり、ものすごいスピードで空を覆っていくような感覚でした。

3月に入り、感染者の増加や入国制限の拡大が連日報道されるようになり、ロックダウンというなじみのない言葉が登場しました。4月からの春学期をどうすればよいのか、具体的な検討を始める時期に来ていましたが、普通のことが普通にできなくなった時、大学はどうすればいいのかという巨大な問いが私たちに突き付けられていました。

有史以来、人は集まって学び、教え、知を継承してきました。この基本的なことが普通にできなくなったわけです。誰もが一定の距離を保たねばならない、大きな声で話してはならないということは、もはや学生が教室で顔を突き合わせて議論することもできず、実習や実技を伴う授業は行えないことを意味しました。本学が20年来積み上げてきた大学運営のノウハウが、突然無効とされたようなものでした。履修登録一つをとっても、これまでのやり方では対応できないため、最初から制度設計をし直す状態でした。

こうした前代未聞の状況において、学生が学びの機会を失わないためには何をすべきか、何ができるのか考えました。その中で幸運だったのは、大学の執行部が「できない理由を探すのではなく、できることを探す」という姿勢をスタート地点としたことでした。例えば、Zoomで遠隔授業を行うという決断は、他大に比べるとかなり早い段階で下されたため、その準備のために教員への

説明会や講習会を何度も開くことができました。学生の通信環境の調査がなされ、新しい授業形態で誰も取り残されることがないように、個人をすくい上げる体制が早急に作られました。

すべてが参照すべき前例のないことばかりでしたので、いろいろと試みては、うまく行くこともあれば行かないこともあり、結果として無駄になったことも多くありました。しかし他の多くの大学が「特別休講」といった形で授業の再開を先送りし、結局オンデマンド型の授業へとなだれ込んでいく中で、本学は4月下旬よりリアルタイムの授業を開始することができました。

こうしたことが可能であったのは、確かに学習院女子大学の規模が比較的小さいためでもあります。教職員・学生数が数万人にのぼるマンモス校では、小回りの利いた対応はそもそも困難だったでしょう。しかし、それより本学が比較的スムーズに授業再開にこぎつけることができたのは、まず大学教職員が一丸となり、危機を乗り越えていくという姿勢があり、そうした試みを理解し受け入れてくださった父母保証人のサポートがあり、そして何よりも、本学の学生が学ぶことをあきらめなかったからだと思います。それはまさに三者の共同作業でした。

春学期が終わり、短い夏休みを経て、一部の科目で対面授業が始まった時、大学に初めて登校した1年生の顔を見て、やはり大学というのは人と人が知的に、精神的に、ふれあい、交換し合い、ぶつかり合う場所であると実感しました。

まだ新型コロナウイルスと学習院女子大学の闘いは終わっていません。令和3年度は原則的に対面授業へと移行します。様々な制約の中でも、「できない理由ではなく、できることを探す」、それが本学の基本的な姿勢です。

学習院女子大学と 新型コロナウイルスとの闘い ～ Linking プロジェクト編 ～

伊藤 由紀子

(国際交流推進センター所長 国際コミュニケーション学科 教授)



世界中が翻弄されている新型コロナウイルス感染への対応において、学習院女子大学で目指したのは、【コロナ禍だからこそできること】を模索することです。授業をオンライン化しましたが、大学生活は授業だけ受ければよいというものではありません。通常であれば、委員会、部、サークルで活動したり、友人や教員とランチをしながら語り合ったり、図書館の静かな空間で資料を探したりする、一人ひとりのキャンパスライフがあるはずですが、それをいかに実現させるかを、「学習院女子大学 Linking プロジェクト」では、取り組んできました。春学期は、Zoomを全面的に活用し、学生間、学生と教職員間の交流を促進しました。秋学期は、少しずつ対面授業が始まる中、いろいろな環境で授業を受けるすべての学生の不安が軽減されるように、そして皆がより豊かな日常を送れるように、ひき続きZoomを活用したイベントを充実させました。またLinkingのホームページを開設し、対面が始まって増えてくる掲示情報やキャンパス風景写真などもアップしました。

春学期のイベントの一つに「学生と教員の交流 with 図書館」があります。学習院女子大学図書館はいち早く図書のリモートアクセスを可能にし、その活用促進も兼ね、教員による「推薦図書リスト」を作成しました。これは教員の写真つきで、教員の紹介も兼ねながらオンラインで読める図書が教員の専門にもとづいて推薦されています。これをもとに1年生にはもっと教員や大学で学べる分野について知ってもらい、2年生以上には普段話したことがない教員も知ってもらい機会として、お昼休み時間にランチを食べながら教員と交流をすることにしたいのが、この「学生と教員の交流 with 図書館」です。とてもカジュアルに授業では見えない、聞

けない先生方の一面を知る機会となり好評を得ました(<https://www.gwclinkingproject.com/ホーム/linking-project/>にある「学生と教員の交流 with 図書館」を参照)。

別のイベントとして「オンライン雅祭」を行いました。「雅祭」は例年4月に開催され、在学生が新入生のために部活動の紹介をしながら歓迎・勧誘をするイベントです。それができず、各団体が個別に勧誘活動をせざるをえなかった中、Linking プロジェクトの一環で、団体紹介、質問会をZoomを通して行いました。その他、のべ50以上ものイベントが各部署によって開催されました(<https://www.gwclinkingproject.com/ホーム/linking-project/>にあるイベント一覧を参照)。

秋学期はホームページを開設、各部署の情報をまとめながら、キャンパスの風景や授業、学生の活動がわかる写真をアップしています。ぜひ、アクセスしてみてください(<https://www.gwclinkingproject.com> を参照)。

Linking プロジェクトで提供できた情報、イベント、機会は限られています。しかし、やらないという決断をしたり、できないことを憂うだけではなく、与えられた環境を最大限に活かしてより豊かな時間を送ることが大切であると学習院女子大学では考えています。この難しいコロナ禍の社会を乗り切るための本学の姿勢により、少しでも大学生生活の主役である学生が勇気、動機付けられ、より積極的に学び、行動して元気な日本、そして国際社会を築く一員となるpost-COVID-19を期待します。

学習院女子大学
Linking プロジェクト

できること、そして今だからその取り組みと発見
そんな2020年度 秋学期！

Linking プロジェクトとは ホームページの使い方

授業・キャンパス風景

対面とZoom授業のハイブリッド型授業が始まり3週間。11月からは一部講義科目もハイブリッドになりますね。キャンパスあるいはZoomの向こうにいる学生さんたちが写り込んだ授業、キャンパス風景等、少しずつアップしていきますね。

今日はランチしている学生さんたちに登場していただきました。
【10月20日（月）更新あり！】

[キャンパスの風景へGO！](#)

学習院女子大学
＼とうがらし女子たち／

＼とうがらし女子／たちの活動写真

キャンパスの風景に写り込んだ学生さんたち。写真の向こうには、学生さんたちの笑顔が写っています。

キャンパスの風景に写り込んだ学生さんたち。写真の向こうには、学生さんたちの笑顔が写っています。

キャンパスの風景に写り込んだ学生さんたち。写真の向こうには、学生さんたちの笑顔が写っています。

キャンパスの風景に写り込んだ学生さんたち。写真の向こうには、学生さんたちの笑顔が写っています。

キャンパスの風景に写り込んだ学生さんたち。写真の向こうには、学生さんたちの笑顔が写っています。

日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
遺跡出土土器の圧痕分析法から分かる 先史時代の植物利用	佐々木 由香	東京大学総合研究博物館 特任研究員	7月2日	3限	歴史資料論Ⅱ(考古)	工藤 雄一郎
伝統芸能を仕事にすること、 小鼓方観世流能楽師	岡本 はる奈	観世流小鼓方能楽師	10月28日	4限	日本文化政策論Ⅱ	阿曾村 智子
食品添加物の役割とその安全性	清水 亮輔	一般社団法人日本食品添加物 協会 常務理事 広報委員長	10月29日	2限	現代生活論Ⅰ (現代食品情報)	宇都宮 由佳
5 Generations of Issei	Toshihiko Ted Katagi	Kenja Corporation CEO及び 名古屋商科大学教授	12月10日	3限	日本人論Ⅱ	木村 直恵
懐石にみる日本の心	中澤 宗寿	表千家茶道 教授	1月13日	3限	日本文化基礎演習Ⅱ・Ⅳ N	品川 明
ワインの特徴と歴史	原口 真一	日光市立足尾中学校 校長	1月14日	2限	比較文化論Ⅵ(嗜好)	品川 明
諸種日本酒の味わいの違い	遊佐 勇人	人気酒造株式会社蔵元	1月15日	3限	日本文化演習Ⅱ N	品川 明

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
自分らしいキャリア形成に向けた アプローチ	三藤 米利紗	アビームコンサルティング株式会社 アナリスト	6月30日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習Ⅰ・Ⅲ T	宇野 公子
証券会社×ワンオペ育児のキャリア選択	安藤 友	大和証券グループ本社 経営企画部	7月1日	3限	国際経済Ⅰ	宇野 公子
英語を用いた国際経済分野での キャリア形成に向けたアプローチ	山崎 万緒	PwCコンサルティング合同会社 アソシエイト	7月1日	4限	外国語演習Ⅰ H	宇野 公子
異文化で学ぶ・異文化で働く	木原 順子	通訳／翻訳家 フリーランス	8月19日	9時 00分	中南米文化論	川本 直美
異文化で学ぶ・異文化で働く	ボリス ベルトラン	サン・バルトロ・シュルトゥン 広域考古学プロジェクト ディレクター	8月19日	9時 45分	中南米文化論	川本 直美
就学前教育・保育の改革課題	下村 一彦	東北文教大学人間科学部 准教授	10月13日	4限	国際コミュニケーション演習 Ⅱ・Ⅳ J	大桃 敏行
障害者から観た世界	宮内 亜依	社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会 職員	11月23日	1限	国際開発論Ⅱ	横田 香穂梨
なぜNPO法人か ーNPO法人新宿ゆったりーのー	小原 聖子	NPO法人ゆったりーの 前代表	12月1日	2限	ボランティア論Ⅱ	伊藤 由紀子
タンザニアの多様な文化・自然・暮らし	金山 麻美		12月3日	4限	アフリカ文化論	津山 直子
外資系戦略コンサルの働き方	相馬 有梨絵	アクセンチュア株式会社 戦略コンサルタント	12月8日	3限	金融論	宇野 公子
Youth engagement@UN ～国際協力に必要なのは？	小野 舞純	国連事務局経済社会局 社会開発部 チーフ	12月8日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習Ⅱ・Ⅳ T	宇野 公子
金融政策、国家公務員総合職の 仕事とキャリア形成	井手 雅敏	財務省東北財務局理財部 金融証券検査官	12月9日	3限	国際経済Ⅱ	宇野 公子
地方公務員が中国・北京市で働くこと	羽根 実咲	(一財)自治体国際化協会 (CLAIR)北京事務所・所長代理	12月9日	4限	外国語演習Ⅱ H	宇野 公子

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
外資系コンサルで働くこと	永野 紗英	アクセンチュア株式会社	6月30日	3限	基礎経済学	宇野 公子
野生メダカの繁殖生態と保全 ～メダカはどこで卵を産むのか？	小林 牧人	国際基督教大学教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授	7月16日	3限	自然環境論Ⅰ(エコロジー)	品川 明
鬼ごっこ「比々丘女」の起源	寒川 恒夫	静岡産業大学経営学部 特任教授	10月28日	5限	社会環境論Ⅳ「遊びと祝祭」	橋本 彩
デート暴力とストーキング	島田 貴仁	科学警察研究所犯罪予防研究室 室長	11月4日	5限	人間関係論Ⅲ (対人関係の発達)	澤田 匡人

司書課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
不動産業界の デジタルトランスフォーメーション	武井 紀久	ココレア株式会社 代表取締役	R3年1月18日	2限	図書館基礎持論	江藤 正己

持たざる者の悪意

——人の幸せを喜べない私たちの闇——

日本文化学科 准教授

澤田 匡人

心理学を専門とする私は、妬み(envy)と呼ばれる感情の働きに関心があります。嫉妬(jealousy)と同じような意味で使われる場合もありますが、両者は厳密には異なっています。もと

ます。すなわち、幸せは「長くは続かない」や「妬まれる」といったものです。

もと自分が持っているもの(特に人間関係)を誰かに奪われると危惧して生じる嫉妬に対し、自分が持つていないものを持った者を目の当たりにして生じる不快な感情が妬みなのです。

このように、忌避すべき感情とみなされがちな妬みですが、心理学では、そのポジティブな側面に関する解明も進んでいます。これまで述べてきたような「悪性妬み(malicious envy)」に加えて、自分のパフォーマンス向上をもた

らす「良性妬み(benign envy)」があるということです。オランダやドイツで行われた研究では、良性妬みを抱くと、創造性を要する課題に長く取り組みめるようになったり、マラソンの完走時間が縮まったりすることが報告されて

います。こうした知見に基づいて、私が日本人の大学生や高校生を調査したところ、良性妬みを抱きやすい者は、他者を基準に目

標を定める傾向があり、その結果として学業成績が良くなること

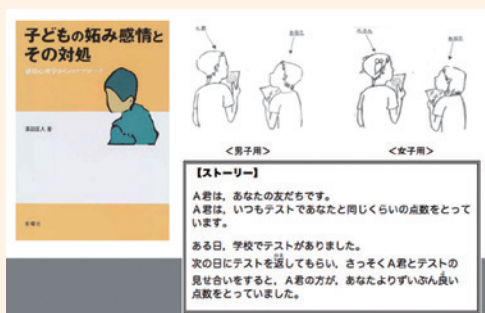
がわかりました。

さらに近年、欧米の研究グループによって、妬みの二面性を首尾よく説明する「痛み駆動双数妬み(Pain-driven Dual Envy)理論」が提案されました。この理論では、悪性・良性の妬みとそれらに類する行為が、当該の状況で生じた「痛み」によって駆動すると考えられています。ただし、これは欧米の研究を中心に検証されたものであり、日本人にも適用できるかは定かではありませんで

した。そこで私は、二〇代から六〇代までの男女を対象としたオンライン調査を通じて、この理論が日本人のデータにも当てはまることを確認しました。さらに、社会階層の指標としての世帯年収や主観的な階層評定との関連もみたところ、社会階層が低い者は「痛み」が際立つ経験を思い出しやすく、社会階層が高い者は「良性妬み」を活用できていることが示唆されました。

「痛み」を伴う感情など、できれば感じたくはないし、すぐに消し去りたいと考えたくもなるでしょう。しかし、時に妬みは、行き詰まった現状を打破し、私たちが

さらなる高みへと導いてくれるのです。日頃から苛まれてやまない感情には、決して「闇」だけでなく「光」もあると信じながら、これからも「妬みとは何か」を問い続けていきたいです。



カンボジアと江戸時代日本の友好の書簡

国際コミュニケーション学科 教授 北川 香子



私は、学習院女子大学の授業では、東南アジアを中心に、広くアジア域をあつかっています。専門的に研究している分野は、カンボジアの歴史・地域研究です。カンボジアと言えば、やはり世界遺産のアンコール・ワットが有名ですね。一九五三年に独立して以来、カンボジアの歴代政権は皆、国旗のデザインにアンコール・ワットを採用しています。カンボジアの歴史も、アンコール時代を中心に、前アンコール時代、後アンコール時代と区分されます。私の専門は後アンコール時代ですが、アンコール時代がカンボジアの最盛期としてさかんに研究されているのに対し、後アンコール時代は衰退期とされ、目を向けられることはあまりありませんでした。

後アンコール時代の研究が進ん

でいない理由はもう一つあります。文献史料がとても少ないのです。ところが日本には、この時代のカンボジアに関するかなり良質な史料が残っています。世界最古のアンコール・ワットの図面は、水戸の徳川博物館が所蔵している『祇園精舎図』です。これは一七二五年に作られた写しで、もとの図面は十七世紀に作られたと言われています。東京大学の史料編纂所が所蔵する『外国関係書簡』は、蝦夷地探検で有名な近藤重蔵が編纂した、一七九七年の奥付がある巻物です。なかには一六〇三、一六〇六年にカンボジアから送られてきたクメール語書簡と漢文書簡の写しが六組、一七四二年のクメール語書簡と漢文書簡の写しが一組含まれています。十七世紀のクメール語書簡は文字の変形が激しく、全体を読み解くことは不可能ですが、日本からの贈り物である「長刀二十振」や「(原)弥三右衛門」など日本人船主の名前、カンボジアからの贈り物である「鹿」皮や「孔雀の羽」など、なんとか読み取れる部分もあります。一方十八世紀の書簡写しはきわめて精巧に作られており、紙に書かれたものとしては、現時点で最古のクメール語史料であると考えられます。

さらにカンボジアの様々な場所で、江戸時代の日本から輸出された肥前陶磁器が発見されています。十七世紀の書簡は、カンボジア王と徳川家康のあいだの往復書簡となっています。日本からカンボジアに送られていたのは漢文の書簡です。漢文の書簡は双方とも、基本的には日本を上位とする書き方がなされています。一方クメール語の書簡では、カンボジア王と日本国主すなわち徳川家康を対等な立場とする書き方がなされ、「親密」、「親愛」、「友好」などの言葉を多用して、両者が書簡と贈り物を取り交わして互いに友好を結んでおり、そのことをカンボジア王が「喜んでいる」と表現されています。

一方十八世紀のクメール語書簡には、カンボジアと日本は昔から互いに「友好の橋」を保ち続け、常に商船が往來していたが、カンボジア国内に不穏が発生し、交易が途絶えてしまったと書かれています。一緒に送られてきた漢文書簡にも、変乱のために人が死に、船が去ってしまったとあります。つまりこの書簡は交易の再開を求めるものなのです。どこか現在の状況に似てはいませんか？ 今学習院女子大学で学んでいる皆さん

んは、コロナによって衰えた国際交流が再興しようとするなかで、社会に出ていくことになるでしょう。書簡に言う「友好の橋」は船であり、それに乗った人々です。微力ではありますが、現在の国際社会における「友好の橋」を構築する人材を育てるよう、力を尽くしていきたいと思っています。



新任専任教員紹介

日本文化学科 准教授

橋本 彩

はしもと さやか



略歴

1975年東京都生まれ。早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業。同大学院人間科学研究修士課程修了・博士後期課程単位取得退学。博士(人間科学)。東京造形大学助教、准教授を経て2020年4月より現職。著書に『ラオス競漕祭の文化誌―伝統とスポーツ文化をめぐって』(単著)めこん、『スポーツ人類学の世界』(編著書)虹色社、『よくわかるスポーツ人類学』(共著)ミネルヴァなど。

私の研究

私の専門分野はスポーツ人類学です。スポーツ人類学は、文化人類学の手法を用いて遊びや娯楽を含む広義のスポーツ文化を研究する学問です。私はこれまで、競い合いや勝敗といった要素をもつ日本および東南アジアの年中行事を研究してきました。院生時代は東南アジアのラオスに2年ほど滞在し、現地語を修得しつつ、雨季明けにメコン川で行われる競漕祭の研究をしていました。上座仏教国であるラオスでは、雨季から乾季へと季節が移る時期に出安居祭という仏教行事および競漕祭を行います。競漕祭

は、地域の精霊信仰に結びついた儀礼の一つで、水の神ナーガにその年の安寧と豊作を祈願するラオス族の伝統的な年中行事です。

私はこの祭りの文化・宗教・歴史背景を研究すると共に、現地の人々が「伝統」と「スポーツ」の関係を祭りにおいてどのように捉えているのかについて、フィールドワークを行ってきました。2000年前後より勝敗重視の近現代的なスポーツの影響もあり、伝統的な舟の形状が変化すると、祭りの伝統を重視する人々の不満が増加しました。しかしながら、「伝統」対「スポーツ」という語りには、それぞれの地域、立場、場面による複雑な事情や感情がないまぜになって存在していたことから、私は彼らにとつての「伝統」そして「スポーツ」とは何であり、何があるのかの2つの話に集約されているのか社会的・歴史的要因を考慮しつつ、分析を行いました。その成果は昨年、『ラオス競漕祭の文化誌』(めこん、2020年)として出版しています。

日本の年中行事としては、秋田の竿燈まつりや千葉県柏市の盆綱引きに関する研究を行ってまいりましたが、ここ数年は国内調査の機会を逸しておりしたので、縁あって本学の日本文化学科に所属することとなりました。これを機に日本の研究、および現代スポーツの文化研究に再び力を入れ、学生の皆さんに多角的なスポーツ文化の魅力を伝えてまいりたいと思っています。

国際コミュニケーション学科 教授

澤田 知香子

さわだ ちかこ



略歴

関西学院大学卒業、同大学院博士課程前期課程修了、後期課程途中でイギリスに留学。ヨーク大学(M.A. in Modern Literature and Culture)、グラスゴー大学(Ph.D. in English Literature)。山梨大学教授を経て、2020年4月より現職。イギリスの現代小説研究を中心に、近年はファンタジー文学やカナダ文学の分野において論文発表のほか、主たるテーマとするミユリエル・スパークについて『英語青年』の特集などにも寄稿(「スパークのヒロイン、あるいはポストモダンの主体―自己創造としての軽やかな変身」総号1890号)。著書に『Mildred Spack's Postmodernism』(単著)Iidosha。

私の研究

私の専門分野はイギリスの現代小説です。英文学研究の道に進んだのは、関西学院大学の恩師、杉山洋子先生との出会いがあったからです。学部、大学院を通じて、先生のもとでウルフからカーターまで多様な作家の小説を読みました。先生はファンタジーにも造詣が深く、やはりファンタジーが大好きだった

私は、この分野についても多くを学びました。大学院では、もう一人の恩師、笹山隆先生の教えを受け、ご専門のシェイクスピアはもちろん、たくさんのドラマを読み、イギリス演劇の面白さに触れました。お二人をはじめ、関学英文科には素晴らしい先生方がおられ、ひとつひとつの文学テキストに向き合う知的な楽しさと開かれた精神が、毎日呼吸する空気の中にあつたのだと思います。そのような環境で文学研究の基盤を得て留学に踏みだせたのは幸運でした。

英国留学以来、長年つきあっているのがミユリエル・スパークという作家の小説です。芸術とアイデンティティ形成の関わり、現代社会のリアリティという二つのテーマを中心に取り組んできました。ポストモダニズム理論・思想が盛り上がった時期、自身のテーマと関連の深い難解な理論を一生懸命勉強する中、スパークの小説を並べて読むことでインスピレーションを得られることが多々ありました。彼女の小説は、現在進行形の現象や社会問題の本質を誰も思いつかないような形で描きだすのです。そういえば1996年には『Fetters』―余剰・余剰人員(失業者)―過剰―をキーワードに「不要な娘が登場する小説を書いています。このコロナ禍の時期を過し、私たちは実生活において「役に立たない」「不要不急」と言うべきでしょうか」とされる物事への渴望、無用の用、というものを肌身に感じてきたと思います。「実学」ではないと切り捨てられがちな文学ですが、それを大学で学んだ幸せな日々は私の人生に欠かせないものです。今は教壇に立つ身として、本学学生の皆さんが学ぶということ自体の楽しみに触れられるような教育を心がけたいと思います。

国際コミュニケーション学科 教授

正本 忍

まさもとしのぶ



略歴

1962年鹿児島県生まれ。九州大学文学部卒（西洋史専攻）、同大学院文学研究科博士課程中退。パリ第四（ソルボンヌ）大学博士課程専門研究課程修了証書（PhD）取得。博士（社会学・橋大学）。九州大学文学部助手、長崎大学教養部講師、長崎大学環境科学部講師・准教授、長崎大学多文化社会学部准教授・教授を経て、2020年4月より現職。単著として『フランス絶対王政の統治構造再考——マレショーセに見る治安、裁判、官僚制』（刀水書房、2019年）。日仏歴史学会理事。

私の研究

私の専門はフランス近世史、社会史です。16〜18世紀のフランス絶対王政の統治構造を主に研究しています。研究の主目的は、国家権力がどのように臣民・国民を統治しようとし、統治される臣民・国民がそれに対してどのように対応（抵抗）したかを、国家の統治機構が飛躍的に整備されるフランス絶対王政期において検証することです。

学部や大学院ではルイ14世治世期のバステイユを研究していました。バステイユはフランス革命勃発時にパリの民衆に襲撃された

監獄として知られていますが、国王権力が絶頂に達したとされる時期にどのような人物がなぜ投獄されたかに興味があったのです。

1992年の留学を機に、新たな研究テーマ、マレショーセに取り組み始めました。マレショーセは、絶対王政期の国王の特別裁判所であり、騎馬警察隊であり、国王軍の一部隊でもあるという、多機能で極めて「近世的な」組織でした。そのような組織の研究は広い射程を持っています。裁判、治安、地方統治、官僚制、軍隊、農村社会、マルジノー（周縁の人々）など様々な角度からアンシャン・レジームの国家と社会を照射できます。

主な研究フィールドはフランス北西部のノルマンディ地方、時期は18世紀前半です。当時の手書きの文書をパリやノルマンディの古文書館に行って探し出し、デジタルカメラで撮って（15年ほど前までは筆写かコピーでした）、日本で読んでいます。文書を書いた人は、300年後にはるか極東の外国人が自分が書いたものを読むなんて絶対に考えられなかったでしょう。そう思うと、とても不思議な気持ちになりますし、愉快でもあります。

ところで、マレショーセは現在にも直接、繋がっている制度です。現代フランスの警察制度は大きく二本立てになっていて、都市を管轄するのが国家警察、都市外を管轄するのが国家憲兵隊です。この体制は17世紀の半ばから1720年にかけて形作られ、フランス革命を経て、基本的にそのままの形で現在に続いています。その国家憲兵隊の前身がマレショーセなのです。

令和2年度 客員研究員受入一覧

	氏名	所属	受入部署	研究テーマ	共同研究者	受入開始	受入終了
1	門間 卓也	関西学院大学文学部 研究員	国際学研究所	社会主義ユーゴスラヴィアにおける 「記憶の政治」	中島 崇文	2020.4.1	2021.3.31
2	四方 八重戸	本学国際学研究所 客員研究員	国際学研究所	持続可能な開発目標(SDGs)の 実現に向けたステークホルダーの 国際動向とパートナーシップ	畠山 圭一	2020.4.1	2021.3.31

国際学研究所(GIIS)だより

国際学研究所長 国際コミュニケーション学科

准教授 金野 純

当研究所は、本学の学部・大学の教育理念の達成を図るために設けられた付属教育研究機関です。平成二四年四月に組織されて後、八年が経とうとしています。研究および活動分野は(1)国際文化交流、(2)国際問題、(3)比較文化、(4)アジア・太平洋研究、(5)外国における日本研究支援です。

当研究所は海外の研究機関との研究交流協定の締結を積極的に行うと同時に、国際シンポジウム・研究集会、講演会・セミナー・展示等を開催し、多くの研究所叢書や英文ジャーナルを刊行することによって、学生や社会に開かれた研究の発信を行ってきました。

昨年度はシンポジウムなどの企画を通して、『中国が世界を動かした「1968」』(藤原書店)といった書籍を発表することができました。また国内外の研究者を招いてのシンポジウムを開催し、さらにカナダのブリティッシュ・コロンビア大学日本研究センター

との研究交流協定の締結など、積極的な研究交流活動を行ってきました。

ところが周知の通り、コロナウィルスによる感染症の拡大によって、二〇二〇年度は大きく制限される結果となりました。そもそも大学自体が入校制限を行わざるを得ない状況に陥ってしまい、大規模なシンポジウムはもろんのこと、小規模な講演会なども自粛しなければならず、これまで行ってきた研究交流活動も一時中断ということになってしまいました。

そこで、この「研究所だより」では、締め切り日の都合上、昨年のたよりでは紹介できなかった二つのセミナーについて紹介しておきたいと思います。ひとつは、二〇一九年二月四日にチェコのパラツキー大学の先生を招いて開催したセミナーです。イヴォナ・バレシヨバー先生とハリナ・ザヴィシヨバー先生による日本文化と日本語学に関するセミナーを行い、学生たちは海外にお

ける日本研究の現在に触れることができました。

もうひとつは十二月十一日に本研究所客員研究員の門間卓也先生を講師としてお招きしたセミナーです。門間先生には「ユーゴスラヴィア紛争とその戦後処理をめぐる問題」についてご講演いただき、活発な質疑応答が行われて盛況なセミナーとなりました。

最後に今年度の活動について触れたいと思います。コロナ下で研究活動が制限されてしまった今年度は、主に「コロナ後」を視野に入れた「下準備」を行う年となりました。

そのひとつが来年度の国際フォーラム(二世紀アジア太平洋時代の日米関係)開催に向けた計画立案です。もちろんコロナウィルスの拡大状況によっては企画内容の見直しなどはありませんが、現時点でJohn E. Hane氏(CSIS所長CEO)、元クリントン政権国防副長官)‘Larry Wilkerson氏(William & Mary大学教授、元第四三代ブッシュ政権国務省官房長)、Lincoln Bloomfield氏(元第四三代

ブッシュ政権国務次官補)、川島真氏(東京大学教授)、飯塚恵子氏(読売新聞)、林載桓氏(青山学院大学教授)といった錚々たるメンバーが参加予定であり、来年度に向けた準備作業を進める年となりました。今後も「コロナ後」を見据えてしっかりと研究所の活動を行っていきたいと思います。





留学生報告

日本文化学科 4年

楊 美双

ヨウ ビソウ

私は日本のジブリアニメに感銘を受け、日本語と日本文化、歴史をもっと理解したいという思いから日本に留学しました。そこで、学習院女子大学の日本文化学科に入学できたのはとても幸運でした。大学四年間の学生生活を振り返ると、全てがまるで昨日のように思い出されます。あつという間に卒業を迎え、あつという間に二ヶ月後に社会人になります。

最初の大学生活はやはり不慣れや戸惑いに困惑しましたが、学内で出会った友人や先輩は色々と相談に乗ってくれ、励ましてくれました。また、ゼミの教授や国際推進センターの方々もいつも優しく、親切で心遣いをしてくれて、非常に心を温められました。大学生活や勉強を支えてくれた先生方々、友人や先輩たちに「四年間、長い間に本当にお世話になりました、感謝の気持ちいっぱいです」という風に伝えたいです。

この四年間の中で、一番印象的な事は、やはり日本語教員養成講座を履修した日々でした。毎日学んだ内容を理解するのが精一杯であり、さらに数回の試験で、点数が出るま



で毎回緊張していた気持ちは今ははっきり記憶に残っています。当時はこのような毎日は速やかに終わらせたいと強く思っていました。が、今考えると諦めずに取り組んできたからこそ、習得出来たのだと、今の自分があるのだと思えます。当時に頑張った自分にも「ありがとう！」と言いたいです。ここまで書きましたが、懐かしい思いをたくさん思い出して、充実した大学生活を過ごした日々はもうろく嬉しかった事が多かったのですが、そのため寂しい気持ちも溢れて来ました。

最後に、これまで大学で学んだ知識や身につけた教養は社会人になってからも発揮したいと思っています。そしてこれからも信念を持って諦めずにどんどん挑戦していきたいです。今までお世話になった皆様本当にありがとうございました。



海外留学報告

日本文化学科 4年

堀之内 玲美

私は、カナダのレスブリッジ大学に留学しました。レスブリッジは、カナディアンロッキーの近くにあり、自然豊かな地域でした。冬はマイナス30度になるほど極寒でしたが、大学での授業と英語のレベルアップに力を注ぎたかった私にとっては最高の留学先でした。

レスブリッジ大学では専攻に縛られることなく、興味を持った授業に各自取り組むことが出来ます。宗教学、留学生向けのカナダ文化の授業やアジア経済論など幅広い分野の授業を受講し視野を広げることが出来ました。また、レスブリッジ大学は留学生へのサポートが手厚く、他の国から来た留学生と交流する機会が多かったのも魅力の一つだと思います。

私は、ドイツ、ハンガリー、韓国から来た留学生と4人でシェアハウスをして生活していました。国籍が違えば、生活してきた環境や慣習も異なり、相手に関心を持つことがコミュニケーションの大前提であることを再確認するきっかけにもなりました。英語力の上達だけでなく、精神面や対人関係など改めて自分自身を見直す貴重な



な時間になったと思います。

留学に挑戦するかどうか迷っていた時、「留学をして失ったものは何もない」というメッセージが書かれたポスターを目にしました。留学を決意した後、やることリスト100を作り、向上心をもって行動したことで自分の期待よりも多くの学びがありました。日本を出て長期間生活するとうことは簡単なことではありませんが、国際交流推進センターの方々をはじめ、家族や友人のサポートがあり、充実した留学生活になりました。この貴重な機会で得た経験を、社会人としての新しいスタートに繋げていきたいです。





4月

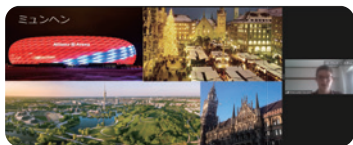
- 7日 ダブルディグリー留学説明会
- 23日 協定留学説明会
- 24日 IELTS説明会
- 27日 TOEFL説明会

本学で学ぶ協定留学生や私費留学生が自分の母国や所属大学を紹介する会を、定期的に開催しています。また、発表した学生とのランチ交流会も翌週に実施しています。今年度はすべてZoomで実施しました。



6月

- 4日 留学生の話を聞こう!(台湾・チェコ)
- 8日 留学生おしゃべりミーティング
- 11日 留学生ランチ交流会(台湾・チェコ)
- 17日 韓国出身留学生との交流会
- 24日 留学生の話を聞こう!(ドイツ)



韓国出身の留学生と韓国に興味のある学生との交流会を実施しました。この他にも、中華圏出身学生との交流会も実施しました。

8月

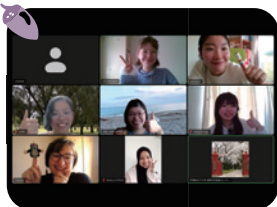
- 21日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部

9月

- 1日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部
- 24日 協定/ダブルディグリー留学説明会

11月

- 6日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部
- 7日 TOEFL ITP学内受験
- 17日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部
- 28日 尚友倶楽部助成 留学生日本語スピーチコンテスト



(発表者のみ来場し、Zoomにて配信しました)

1月

- 14日 留学生の話を聞こう!(ポーランド)
- 21日 留学生ランチ交流会(ポーランド)

3月

2020

国際交流推進センター 行事報告

※交流行事等は、特に記載のない限りすべてZoomにて実施しました。

留学生同士や日本人学生との交流のきっかけ作りのため、Zoomで気軽に話す「おしゃべりミーティング」を開催しました。

5月

- 8日 留学生おしゃべりミーティング
- 21日 留学生おしゃべりミーティング
- 25日~27日 留学経験者との座談会

協定校への留学を目指す学生が留学から帰国した学生に直接質問ができる座談会を開催しています。(Zoomにて実施)

「きもの文化部」の皆さんにご指導いただき、留学生たちが浴衣の着付けを体験しました。全員、素敵に着ることができました!(Zoomにて実施)

- 1日 留学生ランチ交流会(ドイツ)
- 2日 留学生ゆかた体験
- 8日 留学生の話を聞こう!(イギリス・エストニア)
- 14日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部
- 15日 留学生ランチ交流会(イギリス・エストニア)
- 20日 韓国出身留学生との交流会
- 22日 協定留学生を送る会
- 24日 中華圏出身留学生との交流会

7月



春学期いっぱい帰国する8名の協定留学生がこの日だけ特別にキャンパスで集まり、留学期間終了の証書を授与しました。また、この様子をZoomで配信して交流しました。

10月

- 2日、5日、6日 留学経験者との座談会
- 13日 TOEFL説明会
- 19日 IELTS説明会

12月

- 12日 霞会館助成 文楽鑑賞教室(国立劇場)
- 16日 留学生おしゃべりミーティングwith GP部
- 23日 霞会館助成 留学生寄木細工体験

Zoomを通じて職人さんにご指導いただき、各自の自宅で寄木細工や和菓子を作る体験を実施しました。



2月

- 18日 霞会館助成 和菓子作り体験

留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

- ① 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
- ② 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附属機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。
(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
- ③ ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学はカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結しています。)
- ④ その他の留学: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへ留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	備考
協定留学	原則2学期(1年間)	可	本学学費全額納入・協定校学費免除	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
私費留学	原則2学期(1年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
ダブルディグリー留学	①2年次秋学期から留学する場合: 原則5学期(2年6ヵ月間) ②3年次秋学期から留学する場合: 原則4学期(2年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	最短5年間で卒業
その他の留学	1学期～学期に定める休学可能期間内	不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	休学扱い・4年間で卒業不可

協定留学について

1. 協定留学とは

本学では、現在15の国・地域の23校の大学と交換留学協定を締結しています。この23校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学といいます。

2. 学生交換・派遣プログラムのある協定大学一覧(2020年12月現在)

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
イギリス	リーズ大学 リーズ/ウェスト・ヨークシャー州	IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
フランス	西部カトリック大学 アンジェ	ヨーロッパ言語共通参照枠B2レベル
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク/ハンブルク州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度
	ミュンヘン大学 ミュンヘン/バイエルン州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度 またはIELTS 5.5(Overall)以上
チェコ	パラツキー大学 オロモウツ	TOEFL iBT 72点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	TOEFL iBT 75点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	TOEFL iBT 72点程度 または IELTS 5.5(Overall)以上
エストニア	タリン大学 タリン	TOEFL iBT 72点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
中国	清華大学 北京	中国語検定試験(HSK)4級以上 または 中国語検定試験3級以上
韓国	誠信女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験3級程度

※① 語学力の目安は2020年12月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。

※② L=Listening, R=Reading, W=Writing, S=Speaking

※③ 学部により異なる場合があります。

※④ 私費による派遣のみとなります。

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
台湾	実践大学 台北	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.0(L, R, W & S)程度
	静宜大学 台中	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
	高雄大学 高雄	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	TOEFL iBT 57点以上 または 同等レベルの英語能力
フィリピン	バーベチュアル・ヘルプ大学 ラスピニャス/マニラ近郊	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.0(L, R, W & S)程度
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア州	TOEFL iBT 79点以上 (セクション毎のスコア: R13 L13 S18 W21以上) または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)以上
アメリカ	ウェストアラバマ大学 リビングストン/アラバマ州	TOEFL iBT 61点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
	カリフォルニア大学デービス校 ※④ デービス/カリフォルニア州	TOEFL iBT 80点以上 または TOEFL PBT(ITP) 550点以上 または IELTS 6.5(Overall)以上
	ボーリンググリーン州立大学 ボーリンググリーン/オハイオ州	TOEFL iBT 71点以上 または TOEFL ITP 500点以上 または IELTS 6.0(Overall)以上
	ミズウリ南部州立大学 ジョプリン/ミズウリ州	TOEFL iBT 60点以上 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
カナダ	ノーザンブリティッシュコロンビア大学 プリンスジョージ /ブリティッシュコロンビア州	TOEFL iBT 88点以上 IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度 または TOEFL ITP 570点以上
	レスブリッジ大学 レスブリッジ/アルバータ州	TOEFL iBT 70点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 または TOEFL ITP 550点以上

国籍別留学生受入数

2020年12月1日現在

国籍	国籍別総数	合計	49
中国	22	私費	46
韓国	12	協定	2
台湾	4	国費	1
香港	3		
ベトナム	2		
ポーランド	2		
マレーシア	2		
カンボジア	1		
ルーマニア	1		

JASSOの外国人留学生在籍状況調査に準じ、「留学」の在留資格を持つ者を対象としています。

本学学生派遣数

2020年12月1日現在

新型コロナウイルスの影響により、
2020年度は海外への学生派遣は実施しませんでした。

留学説明会について

留学に興味のある方は、
留学説明会に
出席してください。

春派遣は4月、秋派遣は9月に開催を予定
しています。日時の詳細は、G-Portでお知
らせします。

学習院父母会の近況報告

学習院女子大学 父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 大野 泰弘

「ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしています。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の一翼を担う人材として成長することを願っているからです。

本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに、子女の「成長」「活躍をお祈り申し上げます。

● 学習院父母会事務局より

学習院女子大学のご父母(保証人)の皆様には常日頃より、本院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきまして、令和2年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。

学習院父母会の事業運営報告等につきましては「Yawaragi」学習院女子大学だより」に掲載いただけますことを感謝いたしております。

● 父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度 (平成13年度創設)

学習院に在学する学生、生徒等で父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉強熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費(高等科以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額を学習院在学中1年度に限り給付するものです。令和2年度は5名(大学4名、女子高等科1名)の学生・生徒へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度 (平成13年度創設)

現代は単に学問だけでなく、スポーツ文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

- ・各部・各クラブの備品用具等へ助成する一般助成金について、令和元年度は各学校合計64件でした。
- ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、令和元年度は各校合わせまして、優秀賞は団体11件、個人75件、奨励賞は団体2件、個人21件でした。

● 父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」のお見舞い等

新潟県中越地震(平成16年)、福岡県西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生(大学及び女子大学に申請・認定の学生)に対して生活支援金(平成23年度の時限措置)を支給しました。

さらに、近年多発している大規模自然災害に対して、「父母会からの贈呈金に関する内規」を改正し、柔軟に対応できるようにしました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付すると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。なお、本年度はコロナ禍にあつて開催中止となりました。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付

- ・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)
- ・学習院女子大学「グランドピアノ(スタインウェイC227)」の寄贈(平成21年)
- ・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用入形の寄贈(平成21年)
- ・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)
- ・校外施設(沼津游泳場・妙高高原)地デジ対応テレビ等買い替えの寄付(平成22年)
- ・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈(平成23年)
- ・各学校(大学・幼稚園)へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈(平成24年)
- ・女子大学用備蓄品として、アルファ米2100食及びサバイバルパン2016缶を寄贈
- ・学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈(平成26年)

- ・学習院大学へ輔仁会館前噴水広場用屋外チェア16脚を寄贈(平成27年)
- ・初等科図画室内設置の机9台、材料台4台、及び椅子36脚を寄贈(平成29年)
- ・学習院女子中・高等科総合体育館の綴帳一式を寄贈(平成29年)
- ・学習院中・高等科第2テニスコート人工芝化(オムニコート)工事費用の寄付(平成29年)
- ・各学校(大学、中・高等科、女子中・高等科、初等科)のAED新規設置に伴う費用の寄付(平成30年)
- ・学習院女子大学テニスコート(人工芝)新設・整備費用の寄付(平成30年)
- ・幼稚園電動「ひさし」設置工事費用の寄付(平成30年)
- ・沼津 伝馬船(木造和船)一艘を寄贈(令和元年)
- ・学習院中等科・高等科第2体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和元年)
- ・百周年記念会館設置の演奏用椅子購入費用の一部助成(令和2年)
- ・初等科「図画室」工作台天板カバーほか寄贈(令和2年)
- ・女子大のAED新規設置に伴う費用の寄付(令和2年)
- ・学習院中等科・高等科第1体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和2年)
- ・学習院大学体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和2年)

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にございます。

「ご用の方は、遠慮なく、ご連絡下さい。」

開室時間 月・金 9時~17時
(「コロナ禍収束まで」10時~16時)
TEL&FAX:03-3988-3226

チアリーダー部

ごきげんよう。学習院大学と合同で活動している学習院大学同女子大学応援団チアリーダー部SPARKSです。

週に5日、主に女子大学体育館で活動しています。皆さんご存知かと思いますが、チアリーディングとは人を持ち上げるスタンツという動きを中心に、ダンスやジャンプ、タンブリングなど様々な要素が組み込まれた競技を指します。常に危険と隣り合わせのスポーツだからこそ感じられる達成感や、感動がチアリーディングには溢れています。

ここで、SPARKSの魅力を紹介していきます。1つ目は初心者が9割を占めるという点です。大学からチアリーディングを始めた部員が圧倒的に多いのに関わらず、全国大会出場や、全国応援団部門優勝の成績も収めています。大学



生で全国を目指せる喜びや、仲間と創り上げる演技は部員にとって何物にも代えがたいものとなっています。

2つ目は応援団チアと競技チアの両方で活動できるという点です。競技チアとして年に3大会に出場するだけでなく、応援団の一員として他部の応援活動や東北応援へのボランティア活動などを行っています。競技チアでは味わえない、もう一つの感動が応援団には存在します。学習院大学応援団では「10年で日本一の応援団になる」という目標を掲げています。競技でも応援団としても全国を目指す熱い団体はSPARKSだけといっても過言ではありません。

これらの活動や成績から多くの方々の支えがあり、今ではSPARKSで部員総勢62名、学習院応援団では総勢120名を超える大きな団体へと成長させて頂きました。これからもSPARKSがより成長していけるよう練習に励み、技術を高め、多くの方々に感動を届けられるよう努めて参ります。

国際コミュニケーション学科 3年
熊澤 瑠七

弓道部

ごきげんよう。弓道部です。私たちは目白の学習院大学内にある弓道場で、学習院大学と合同で練習しています。

弓道とは、矢が的に中たった数の合計で勝敗を決める歴史のある武道で、男女問わず行うことができます。運動神経などとは関係なく、誰でも挑戦することができる競技なので、大学から弓道を始める部員も多く在籍しています。練習では袴を着て活動するので、日本文化にも触れることができます。静寂の中、矢が放たれる音と的に中たる音が響く道場は非常に魅力的です。



一年を通して大会や審査、行事などがあり、主な活動内容は、大会に向けてチーム全体で一つの目標に向かって活動していきます。一昨年では学習院女子大学の部員が全関東学生弓道選手権大会個人戦で一位という素晴らしい成績を収めました。

弓道は技術面も大切ですが、何よりも最後は自分に打ち勝つことが重要になるので、四年間を通して精神力が強くなり、物事のメリハリがつけられるようになります。それだけでなく社会に出てから役立つ作法も学ぶことができるので、とても充実した四年間になります。弓道は競技だけでなく人として成長させてくれる武道でもあります。

このような状況下ではありますが、感染対策を徹底し、部員一同切磋琢磨し今後とも精進してまいります。

国際コミュニケーション学科 2年
弓道部 主将 安井 菜々子

「和祭」を振り返って

2020年度実行委員長

国際コミュニケーション学科3年

淵上 莉乃

「ぎげんよう。今年度の和祭は新型コロナウイルスの影響により、10月10、11日に初の試みとしてオンライン上での開催となりましたが、受験生や学習院女子大学の学生、そしてご家族の方々など多くの方に「視聴いただき、心より嬉しく思っております。」

記念すべき20周年を迎えた今年度の和祭は、「結（むすび）〜musubi〜」をテーマに掲げ、委員一同、活動してまいりました。友人、家族また恋人など様々な人との結びつきの大切さを実感するこのような時だからこそ、人と人との結びつきや繋がりを大切に、手を取り合って困難を乗り越えていきたいと考えました。また国際文化交流学部である私たちが、今後の国際社会のなかで、日本と世界を結びつけていくことのできる女性になりたいという願いも込めて

「結〜musubi〜」としました。大学祭を中止とした大学もあるなか、私たちは「学習院女子大学の受験を考えている学生に向けて本学の魅力や雰囲気伝え、興味を持ってもらうきっかけにしたい」という想いのもとオンラインでの実施に至りました。

一方で、例年お招きしている著名人のトークショーは今年度の和祭の開催目的に融和するのか、コロナ禍の環境下、ミスコンテストの撮影をどのように進めるべきかなど、多数の課題・問題点に直面しました。その時、私たちは一旦立ち止まり、「受験生のために開催したい」という今年度の和祭開催の原点に立ち返り、オンライン開催企画を一から考え直しました。そして和祭実行委員の皆と協議を重ね、教授や学生部の方々に和祭開催に向けた企画書を何度

も提案し、私たちの熱意を伝え続け、開催に至りました。

トークショーは、卒業生の方々に現在の活躍をインタビューする企画に変更し、ミスコンテストの撮影は、和祭実行委員の人数制限や体調管理、空調管理、ソーシャルディスタンスを徹底し、感染リスクを抑えることを第一に考え、無事に撮影を終えることができました。さらに「結（むすび）〜musubi〜」というテーマのとおり、和祭当日に配信する動画の撮影や出演、編集、和祭専用HPの作成などの様々な役割を通して総勢200名もの和祭実行委員が参画できるような企画を新たに考え、協力して活動することができました。そして和祭当日には総再生数が約1万回と、大変多くの方々にご視聴いただきました。

皆で一つのことを実行する難し

さもありませんが、和祭20周年、そして大きな変化の年となった2020年という特別な年に和祭実行委員長をさせていただき、一人では成し遂げられないことも人と人との結びつき、繋がりにより挑戦できるということを実感することができました。活動を通して学んだことも、出会った仲間もかけがえのないものであり、一生の財産です。大変ありがとうございました。

最後となりましたが、和祭の開催・運営にあたり、ご理解、ご協力をいただきました教職員の皆様、地域、企業の皆様、卒業生の方々、そして在校生の皆様へ、あらためて実行委員一同、深く御礼申し上げます。



令和2年度 オンライン和祭
HP、デジタルパンフ メインイメージ



就職力

本学では、国際系学部の強みが発揮され、グローバル企業への就職実績が高いことが特徴です。また、市場における一般職の採用者数が減少の一途をたどる中、近年、学生達は様々な業界へチャレンジし、内定を得ています。小規模校のため、各企業への就職者数では大規模総合大学と比較すると少数ではありますが、実就職ランキングでは高い就職率を打ち出しており、大いに健闘していることがわかります。

速報！

充実したキャリアサポートにより、
本学の学生は社会で高い評価を
いただいています。

2020年著名400社
実就職率
(卒業生数500人以下の大学)

2020年実就職率
学部系統別編
(国際系)

1 全国
女子大
位

2 全国
女子大
位

2020年著名400社
業種別実就職率
(運輸)

2020年著名400社
業種別実就職率
(金融)

4 全国
位

3 全国
女子大
位

*全て大学通信調べ

*著名400社は、日経平均株価指数の採用銘柄に加え、
会社規模や知名度、大学生の人気企業ランキングなどを参考に、大学通信が選定

<令和2年度業界研究ランチセミナー／業界研究セミナー主な参加企業>

三井倉庫ホールディングス、キュービータマゴ、共栄火災海上保険、ミキモト、あいおいニッセイ同和損害保険、日本通運、三菱UFJモルガンスタンレー証券、三井物産ケミカル、リコーリース、郵船コーディアルサービス、アクセンチュア、スターツコーポレーション、トランス・コスモス、近鉄エクスプレス、東日本旅客鉄道、村田製作所、カルチュア・コンビニエンス・クラブ、三井住友信託銀行、高見(TAKAMI BRIDAL)、社会保険診療報酬支払基金、岡三証券、パレスホテル、紀ノ國屋、アインホールディングス、全日本空輸、ファミリア、積水ハウス、ビューカード、日本郵便、日本生命保険、明治安田生命保険、ホテルオークラ東京、長島・大野・常松法律事務所、住商グローバル・ロジスティクス など

キャリア支援部のサポート体制

キャリア支援部では、年間を通しての個別面談に加え、全員参加可能な授業がない木曜5時限や昼休みに様々なキャリア支援セミナーを開催しております。セミナーのほとんどは全学年対象とし、低学年からのキャリア形成の機会を設けております。今年度は新型コロナウイルスの影響により、個別面談および各種セミナーは全てオンライン開催となりましたが、学生のニーズにあわせて、多彩なセミナーを実施しました。また、今年度は学習院卒業生を講師とした「就活ゼミ」を開催しました。ゼミの時間外にも自主的な勉強会が開催されるなど学生の主体的な学びの場が生まれる機会となりました。様々なセミナーに加え、動画配信も行ふことで、学生が多くの情報に触れ、自身のキャリアプランについて考える機会を提供しております。

キャリア支援スケジュール(2021.1.31時点) *動画配信

開催月	セミナー内容
4月	- WEB面接にも対応「面接対策講座～実践編」(全3回) - 内定獲得に向けた就活セミナー - コロナに負けない！就職活動の始め方① - 公務員セミナー*
5月	- 筆記試験(Web試験含む)対策講座①* - コロナに負けない！就職活動の始め方②③ - 大手企業人事経験者による「ES・企業側の評価ポイントを再確認しよう」 - 大手企業人事経験者による「通過するES・企業側の評価ポイントを知らう」<第1弾> - 大手企業人事経験者による「面接のポイントを再確認しよう」 - 大手企業人事経験者による「通過するES・企業側の評価ポイントを知らう」<第2弾> - 今から始める！業界・企業研究のやり方 - 玉手箱体験動画講座①*
6月	- 玉手箱体験動画講座②* - 就活ゼミ(4回) - 大手企業人事経験者による「通過するES・企業側の評価ポイントを知らう」<第3弾> - インターンシップ成功セミナー <4年生対象>オンライン求人紹介① - 企業訪問時のマナー講座(所作/身だしなみ/メイク/髪型) <低学年(1,2年生)対象>就職&インターンシップ講座*
7月	- 就活ゼミ(4回) <4年生対象>オンライン求人紹介② - 知って不安解消！インターンシップでの学びを最大化するためのガイダンス <4年生対象>合同企業説明会 - 大手企業人事経験者が答えます！就職活動に関する不安・疑問を解決しよう！！ - グループディスカッション講座・模擬練習 <4年生対象>オンライングループ模擬面接会(全3回) <3年生対象>オンライングループ模擬面接会(全4回) <2年生対象>今！知っておきたい！就活・将来に必ず役立つ話 <1年生対象>これからの大学生活、どう送る？就活・将来を少し考えてみよう
9月	- 関東女子5大学GD(全4回) - アナウンサー試験対策講座 <4年生対象>リスタートアップセミナー&求人紹介③ - 後期 就活スタートアップ講座～後期にやるべきことが分かる！就活準備講座～
10月	「筆記試験(Web試験含む)対策講座②」* - 就活ゼミ(4回) - 会社四季報を活用した業界・企業研究のススメ～ココを見れば分かる！伸びる会社、伸びない会社～ - 内定者からの「就活How to セミナー」(11回) - インターンシップ振り返り講座～本選考で納得の1社へつなげるために～ - 業界研究一視野の広げ方～ - 公務員セミナー ～秋からはじまる公務員試験対策～ - 筆記試験対策講座 - 大手企業人事経験者が伝える「どこでも通過できるESのポイントとは？」 - 外国人留学生の就職活動について - 急激に増加する選考のトレンド！「動画選考」および「Web面接」対策セミナー
11月	- 業界研究ランチセミナー(13回) <4年生対象>オンライン求人紹介④ - 就活ゼミ(3回) - オンラインでもオフラインでも印象UPする就活メイク講座 - 内定者からの「就活How to セミナー」 - 入社1・3年目OGのホンネ～働くリアルに迫り、自らの理想の働き方をイメージしよう～ - 面接突破の第一歩！「集団面接」対策セミナー【実践編】 - Webフリー相談会 - 人事部のホンネ「コロナ時代の就活」セミナー - 実践型グループワークセミナー①
12月	- 業界研究ランチセミナー(11回) - 就活ゼミ(3回) - 実践型グループワークセミナー② - 面接時マナー講座 - 特別授業「バライティがシフトする時」(キャリア支援部後援) 【今知っておくべき！】来年の就職活動予想&新聞で賢く就活講座 - 面接対策セミナー - どこまでできていれば大丈夫？コロナ禍での就活準備12月編 <4年生対象>オンライン求人紹介⑤ - キャリアタスク活用術
1月	- 玉手箱(Web試験)体験セミナー - 一般教養(Web試験)体験セミナー - オンライン相談会「もやもや部屋」 - 業界研究セミナー(航空業界) <4年生対象>オンライン求人紹介⑥
2月	- 業界研究セミナー(全3日間) - キャリアアドバイザー(4年生内定者)による個別相談会 - 本番直前！元採用面接官による模擬面接会(全5回) - 本番直前！グループディスカッションセミナー【実践編】(全2回) - オンラインOBOG訪問会 <2年生対象>3年生による相談会
3月	女子大学主催合同WEB企業説明会



ポーラ

令和3年3月
日本文化学科 4年

青井 明日香

内定

就職活動中、よく「絶対になんとかできる」と自分に言い聞かせていました。就職活動を始めてから、自分が思っているほど簡単に乗り越えられるものではないだろうとは思っていました。しかし、この想像を大きく上回るほど逆境に立たされる場面が多くありました。採用活動の中止や延期の報告を受けて不安になる日もありましたが、前に進むほか道はないと思って就職活動に励みました。

逆境の中でも前に進むことができた理由は二つあります。一つ目はきちんと自分と向き合えたからです。自分が将来どのような人間になりたいのか、どこの企業・職種なら

ば自分らしく働くことができるのか自己分析を深めたことで、強い芯を持つことができました。二つ目は多くの方々の支えがあったからです。私一人では逆境を乗り越えられなかったと思います。キャリア支援部の方をはじめ先輩方や友人からのアドバイスに、いつも背中を押されました。自己分析と多くの支えのおかげで非常に満足した就職活動になり、春からの勤務を楽しみにしています。

就活生の皆さんには自信を持って挑戦してほしいです。誰かに相談することで不安が解消され、前向きになれるかもしれません。心から応援しています！

航空業界の採用活動中止という自分の努力では変えられない現実と直面し、幼少期より憧れていた客室乗務員になることは出来ませんでした。やるせない思いや先の読めない状況から、焦りや不安に駆られていましたが、この状況を悲観的に捉えるのではなく、「人間万事塞翁が馬」という言葉のように、どのような状況でも自分次第でピンチをチャンスに変えられるのだと自分を信じて就職活動に励んでいました。

「どうしたら客室乗務員に近づけるのか?」「どのような客室乗務員になりたいのか?」と自分自身に問いかけることで、採用活動が中止になった後も軸をぶらさず、私自身が納得する就職活動を行うことが出来ました。

また、私1人の努力ではなく、キャリア支援部をはじめ、

大学のOB・OGや切磋琢磨し合った友人、家族等、多くの方々のお力添えや応援のお陰で就職活動を乗り越えることが出来たのだと感じています。就職活動を通して、多くの方との出会いや繋がりに心から感謝の気持ちでいっぱいです。

これからはホテルという舞台で、色々な人と出会い、沢山の刺激を受ける中で、さらに自分自身に磨きをかけたいと思っています。

就職活動中は、不安や焦りから自分のことばかりに意識が向いてしまうと思います。しかし、どんな状況でも周囲の方々への感謝を忘れず、なりたいた自分を想像して、素直に謙虚に志高く努力し続けてください。皆さんの就職活動を心から応援しています。



パレスホテル

令和3年3月
国際コミュニケーション学科 4年

大井 里花

内定



QVCジャパン

令和3年3月
英語コミュニケーション学科 4年

加藤 咲

内定

私は在学中やりたい仕事や夢が明確ではありませんでしたが「やらない後悔」をしなくなかった為、学内のキャリア支援が始まった3年生の5月頃から就職活動を意識し始めました。

キャリア支援部の皆様には学内ガイダンスに加え、進路相談やES添削、面接練習と3年生の夏から手厚くご指導いただきました。学外では様々な業界のインターンシップや説明会に可能な限り参加しました。参加時間内は常に企業へのアピールに繋がると捉え、積極的且つ明るい姿勢を心がけていました。その結果知れば知るほどワクワクする業界・職種を見つけることが出来、就職活動が楽しく感じられ

ました。

一方で選考過程では思うようにいかず悔しい思いをした時もありましたが、「私とは合わなかっただけ」「私が進むべき道ではなかっただけ」と自分の個性を失わない為に前向きに考えることで自分を鼓舞しました。特に自分の短所に目を向けて悩むより、長所を伸ばして発揮することが他の学生との差別化に繋がると思い実践しました。

希望の進路を見つけたり、内定が出るタイミングは人それぞれです。どうか早い遅いに囚われずご自身のペースで、自分らしさを失わず、納得のいく就職活動をしていただけたらと思います。心から応援しています。

「就職活動」という言葉を聞くと、辛そう、不安、周りがライバルだらけになる…などマイナスなイメージを持っている人も多いと思います。実際わたしも、2年前の今頃くらいまではそう思っていました。もちろん、就職活動をしていると思うようにうまくいかず、このまま自分はどこの会社にも就職できないのではないかと、思うこともありましたが、今改めて就職活動を振り返ると自分を一番ちゃんと見つめ直し、未来への扉を自分で大きく開いた、私の人生の中で一番大きく、前向きな出来事だったと感じています。これは就職活動を終えたからこそその結果論

かもしれませんが、就職活動を乗り越えるには根拠のない自信が必要だと思います。私を落とすなんてセンスない、という根拠のない自信を持つだけで、面接に落ちたりしても前向きに捉えられるし、面接官の方や人事の方とお話をする時でもまるで違う印象を与えられると思います。うまくいかないときこそ、明るい気持ちを持って常に笑顔で最後まで諦めず、程よく息抜きをしながら自分の将来と向き合ってほしいと思います。遠くから応援しています!頑張ってください!



三井住友信託銀行

令和3年3月
英語コミュニケーション学科 4年

木村 瑞穂

内定

コロナ禍における図書館サービスについて

2020年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止」という未曾有の事態から始まりました。図書館においても、従来の「来館方式」から、来館と遠隔による「ハイブリッド方式」で図書館資料を利用できるよう運用を変更し、利用者の皆様が少しでも安全に館内を利用できるよう環境整備に努めています。そこで、今回はコロナ禍における図書館サービスの状況(2020年12月時点)についてご紹介します。



■開館状況(来館利用)

緊急事態宣言解除後の6月1日より、女子大学所属者を対象に開館時間を1日4時間に限定し、資料の閲覧・貸出を主とした来館利用を再開しました。感染症対策として、利用可能エリアを限定し、滞在時間15分程度、利用者による館内書架への立ち入りは不可(スタッフによる出納形式)という限定的な利用条件での開館となりましたが、1日あたり約5～10人程度の来館利用があり、特に、学部3年生以上による卒業論文準備のための来館者が多く見受けられました。

10月5日より、対面授業の一部再開に伴い、開館時間を授業時間に合わせて延長(平日8:50-18:30 / 土曜8:50-13:00)しました。また、それまで制限していた館内書架への立ち入りを可とし、自由に閲覧できるよう利用範囲を拡大しました。図書館資料検索端末(OPAC)以外のパソコン利用、グループ学習室の利用は中止していますが、

女子大学がハイブリッド型の講義を実施していることから、館内所定の場所で遠隔授業を受講できるようにしました。滞在時間30分程度、館内滞在者数を100人までと制限していますが、1日あたり約25～35人程度の利用があります。



AVブース(遠隔授業受講可能エリア)

■郵送サービス(貸出・複写)

女子大学図書館では、オンライン授業及び臨時休館が続く中、図書館資料を利用できるよう5月20日より「郵送による貸出サービス(郵送貸出)」を開始しました。また、郵送貸出対象外である「雑誌」資料に掲載されている論文を利用できるよう6月3日より「自館資料コピーサービス(郵送複写)」を開始しました。両サービス共に女子大学所属者及び学習院大学の学部生、院生を対象に実施しています。

利用者は平常時の10%程度ですが、郵送貸出は全学年、郵送複写は雑誌論文を必要とする学部3年生以上からの利用が多い状況です。

なお、両サービス共に学習院大学図書館でも実施しており、女子大学の学生・院生は大学図書館、法経図書センター、理学部図書室で所蔵する資料の郵送サービスを受けられます。

■リモートアクセス

今年度より女子大学所属者が学外から女子大学契約のデータベース、電子資料(図書、雑誌)を利用できるよう「リモートアクセス」のサービスを導入しました。これにより、学部生が主に利用する辞書、新聞、雑誌論文検索、電子資料(図書、雑誌)のデータベース類は学外からアクセス可能となりました。例年よりデータベースの利用数が増加したため、利用率が高いデータベースの同時アクセス数を増加する等の対応もしました。併せて、電子書籍のコンテンツ類を追加購入し、より自宅から図書館資料を利用できるよう取り組んでいます。

■Zoomを利用した利用教育

オンライン授業実施中に伴い、例年実施しているガイダンス類はZoomを通して行いました。教員からの依頼で講義の一回(90分)を使用した「情報検索セミナー」では、リモートアクセスを利用したデータベース、電子書籍の利用方法について説明する機会を設け、リモート環境下における学習をサポートできるよう努めています。また、年2回実施している「ライティング支援講座」も外部講師を招き、Zoomにて開催しました。大学生がレポート、卒業論文を作成する上で必要な文章技術や構成に加え、著作権についての話も含めて、とても充実した内容となっており、聴講者は2回合計で120名となりました。例年は卒業論文の執筆を控えた学部3年生が多いのですが、今回は学部1年生の参加が目立ちました。オンライン授業が続く中、レポート作成に悩むなど新たな需要もあり、次年度以降の講座内容に反映させたいと考えています。

■感染症対策 ～施設・設備について～

閲覧席の間引き、カウンターへの飛沫感染防止パネルの設置、1日数回の除菌、窓の開放、除菌グッズの設置、入退館ゲートシステムによる滞在時間・滞在者数の制御などを実施しています。

なお、感染症のリスクが高くなることから、館内での自習、共用パソコンの利用、グループ学習室の利用を現時点では禁止しています。これらについては、女子大学の方針、今後の感染状況等に合わせ、対応していく予定です。



座席を間引きした閲覧室



飛沫感染防止パネルを設置したカウンター

■感染症対策 ～資料について～

カウンターにおける資料の対面受け渡しを極力避けるべく、貸出は自動貸出機、返却は館外設置の返却ポストにするよう促しています。利用者から返却された資料は3日、館内で閲覧した資料は返本台への返却後1～2日ほど隔離をしてから書架へ配架しています。また、資料利用前後に手洗いを推奨する掲示を貼るなどして、可能な限りの感染症対策を実施中です。



資料返却用ポスト(館外に常設中)



事務室内に隔離中の返却資料

専任教員著書の紹介

2020.1.1 ～ 2020.12.31

※原則として単行書を取り上げ、著作形態および紹介文は教員の報告に拠っています。



石澤 靖治 教授

2020年生き残りの戦略
—世界はこう動く!—

編著

出版社名/創成社

出版・発行年月/2020.1

内容/国内外でこれまでにない変動が続く中で、2020年の世界がどのようなのかを、国と地域という枠組みと、注目すべき分野という2つの側面から分析し予測したもの。約20人の一線級の識者の論考をまとめあげた。



今橋 理子 教授

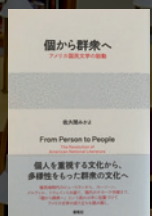
四季の花 上巻・春夏編
四季の花 下巻・秋冬編

酒井抱一他画、塚本洋太郎作品解説、
今橋理子寄稿

出版社名/青幻舎

出版・発行年月/2020.1

内容/明治40(1907)年に木版本として芸艸堂より出版された、江戸琳派の植物画譜の復刻版。青幻舎2006年発行本をさらに改定している。『四季の花』と明治における江戸琳派と題した巻頭言を新たに寄稿した。同書の下巻は「抱一の「新しい四季草花」と『四季の花』と題する巻頭言を新たに寄稿した。



佐久間 みかゝ 教授

個から群衆へ
—アメリカ国民文学の鼓動
著

出版社名/春風社

出版・発行年月/2020.2

内容/アメリカ固有の文学が成立した19世紀を中心とし、植民地時代から20世紀にいたる個の確立から多様性の国へと変遷するアメリカ文学の特徴をあらわす10の作品を分析したものである。



橋本 彩 准教授

ラオス競漕祭の文化誌
—伝統とスポーツ化をめぐって
著

出版社名/めこん

出版・発行年月/2020.2

内容/ラオスの首都ヴィエンチャンで開催されている年中行事、「競漕祭」の19世紀末から現在に至る変遷を文献と現地調査から明らかにし、現在の競漕祭における「伝統」の概念がどのように醸成されてきたのかを論じた。



時安 邦治 教授

日本近代再考 学習院女子大学
グローバルスタディーズ④

時安邦治 編・訳
M・フェザーストン、W・シュヴェントカー、
玉利智子、木村絵里子著

出版社名/白澤社

出版・発行年月/2020.3

内容/2017年12月に学習院女子大学で開催したシンポジウム「日本近代再考」を書籍化したもの。4人の社会学者・歴史学者が各々の問題関心から日本の近代およびその研究を問い直し、刺激的な議論を展開している。



伊藤 守幸 教授

更級日記 上洛の記千年
—東国からの視座
共著

出版社名/武蔵野書院

出版・発行年月/2020.7

内容/2020年は、『更級日記』の作者菅原孝標女が上洛の途についた年から千年目に当たる。その記念に編まれた論文集のために、『更級日記』における東国の意味—作品の語らなかつたこと—と題する論文を執筆。



大桃 敏行 教授

日本型公教育の再検討
—自由、保障、責任から考える
共編著

出版社名/岩波書店

出版・発行年月/2020.7

内容/公教育の揺らぎや再編課題を、自由と保障と責任を手掛かりに考察したもの。学校だけでなく、学校と家庭や地域、教育と福祉、学校教育と社会教育との関係も含めて検討を行った。



学習院女子大学専任教員紹介

日本文学学科

伊藤 守幸	教授	平安文学研究、比較日本文学研究
今橋 理子	教授	日本美術史(江戸絵画史)、比較日本文化論
岩城 宏明	教授	情報処理、計算科学
岩淵 令治	教授	日本近世史
内野 儀	教授	表象文化論、舞台芸術(演劇・舞踊)論
宇都宮 由佳	准教授	食文化、生活文化
木村 直恵	准教授	日本近代史、文化史
工藤 雄一郎	准教授	先史学、植物考古学、環境考古学、年代学、漆文化史
越塚 美加	教授	図書館情報学
佐藤 琢三	教授	日本語学(現代語の意味論・文法論)
澤田 匡人	准教授	感情心理学
品川 明	教授	フードコンシャスネス教育、環境教育、食品科学、生態学、コミュニケーション
清水 将吾	准教授	情報科学、情報セキュリティ
清水 敏男	教授	現代美術史、アートマネジメント(博物館学)
土屋 有里子	准教授	日本中世文学、キリシタン文学
時安 邦治	教授	社会学・社会思想
橋本 彩	准教授	スポーツ人類学、文化人類学
福島 直恭	教授	日本語学、日本語史
福島 雅子	准教授	日本染織史、服飾史

国際コミュニケーション学科

石澤 靖治	教授	国際コミュニケーション論、米国政治
伊藤 由紀子	教授	国際協力、NPO、NGO
ウーゴ・ミズコ	准教授	建築学、歴史的建造物の保存修復史
宇野 公子	教授	国際経済、金融論、基礎経済学
江藤 正己	准教授	図書館・情報学(情報検索、情報システムなど)
大桃 敏行	教授	教育行政学、教育制度論
北川 香子	教授	東南アジア史・地域研究
金城 亜紀	教授	経営学、経営史
金野 純	准教授	社会史 歴史社会学 東アジア地域研究(主に現代中国)
佐久間 みかよ	教授	アメリカ文学・文化
櫻井 大三	教授	国際法
澤田 知香子	教授	英語圏文学[イギリス小説]・文化、ポストモダニズム理論
莊林 幹太郎	教授	農業政策、農業貿易と環境、農業環境・資源政策
武井 彩佳	教授	ドイツ現代史、ユダヤ史、マイノリティ研究
中島 崇文	教授	中・東欧の歴史、政治、宗教、社会、文化、民族問題
畠山 圭一	教授	国際政治学、アメリカ政治外交、日米関係
古庄 信	教授	英語学(歴史統語論、特にシェイクスピアと聖書の語法)・イギリス文化論
正本 忍	教授	フランス近世史、社会史、法制史
羅 京洙	准教授	国際関係論、国際移動論、東アジア地域研究、現代コリア研究

英語コミュニケーション学科

岩崎 光洋	教授	LL・英米映像文化史
ウィン・グン	教授	ビジネス英語
萱 忠義	教授	応用言語学、英語教育、英語教育へのICT活用
クレイ・サイモン	教授	翻訳研究、英語教育
高橋 礼子	准教授	応用言語学、World Englishes、English as a Lingua Franca
田島 千裕	准教授	異文化コミュニケーション、英語教授法、混合研究法、留学研究

学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	162	202	49	413	6
2年	137	167	49	353	5
3年	164	212	55	431	-
4年	189	219	57	465	-
合計	652	800	210	1,662	11

(令和2年12月1日現在)

令和3年度 女子大学奨学金 一覧表

※特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問い合わせください。

制度名			金額(円)	募集時期	貸・給別	備考
安倍能成記念教育基金奨学金			450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金			学部学生 150,000 大学院生 300,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学大学院研究奨励金			大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り
学習院女子大学学費支援給付奨学金			学部学生 第2期授業料相当額	9月中旬	給付	採用1ヶ年
学習院女子大学奨学金			大学院・学部学生 学費納付金相当額以内(通算二学期分以内)	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金			在学中利子分給付(年50,000を上限)	11月上旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請
学習院女子大学海外留学奨学金			500,000以内	G-Port	給付	
学習院女子大学海外留学奨学金 (交換によらない難関協定校への留学)			600,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金			現地研修100,000以内・オンライン研修30,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金			100,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学協定留学生奨学金			500,000以内	対象者へ個別通知	給付	協定留学生対象
学習院女子大学外国人留学生奨学金及び奨励金			奨学金 200,000	G-Port・掲示による	給付	毎年申請
			奨励金 300,000	募集しない・推薦制		
学習院父母会奨学金			学部学生(家計急変者に限る) 授業料・施設設備費相当額	11月中旬	給付	採用1ヶ年在学中1回限り
日本学生支援機構	学部学生	第1種(無利子)	自宅 月額54,000上限 自宅外 月額64,000上限	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種(有利子)	月額120,000上限			
	大学院生	第1種(無利子)	月額50,000または88,000	4月上旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万の いずれかを選択			
高等教育における 修学支援新制度 (学部生のみ)		授業料減免	年額700,000を上限として減免	4月上旬	給付(減免)	継続審査あり
		日本学生支援機構 給付型奨学金	自宅 月額42,500上限 自宅外 月額75,800上限	4月上旬	給付	継続審査あり
日本学生支援機構 外国人留学生学習奨励費			月48,000	募集しない・推薦制(※原則)	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり
その他公私機関による奨学金制度			その都度G-Port及び掲示参照			

令和3年度 学年暦

4月	春季休業	1(木)～11(日)	10月	和祭準備(休講)	8(金)
	新入生ガイダンス	1(木)～10(土)		和祭(休講)	9(土)、10(日)
	健康診断	1(木)、2(金)		和祭片付け(休講)	11(月)
	雅祭	3(土)		開院記念日(休講日)	17(日)
	入学式	4(日)	11月		
5月	春学期授業開始	12(月)	12月	振替休講日	21(火)～23(木)
	休日開講日	4(火)、5(水)		冬季休業	25(土)～1/7(金)
6月	開学記念日(休講日)	15(土)	1月	授業開始	8(土)
				補講期間	20(木)、21(金)
7月	補講期間	20(火)、21(水)		秋学期末試験	22(土)～28(金)
	休日開講日	22(木)		秋学期授業終了(試験予備日)	29(土)
	春学期末試験	26(月)～31(土)		学年末休講	30(日)～3/21(月)
8月	春学期授業終了	31(土)	2月	秋学期追試験	15(火)、16(水)
	夏季休業	1(日)～9/19(日)		卒業式	19(土)
9月	春学期試験予備日・追試験	13(月)、14(火)	3月	在学生ガイダンス	22(火)～25(金)
	秋学期ガイダンス	15(水)～17(金)		春季休講	22(火)～31(木)
	秋学期授業開始	20(月)			
	休日開講日	20(月)、23(木)			

草上会の活動と現状

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、草上会活動の多くが見合わせとなりました。そこで今回は草上会の活動内容についてご紹介いたします。

草上会は、昭和34年11月の発足から今日まで、会員皆様の熱心な活動に支えられて62年の歩みを続けております。現在、会員は3万人を超え、80代から20代の幅広い年代が集う会へと発展いたしました。

草上会の組織は、役員である運営委員と監事、幹事、回生幹事で構成されています。

運営委員は、原則月1回運営委員会を開き、総会、オール学習院の集い、草上会バザー、ボランティア、日帰りツアーなどのチームで、活動を立案し、開催しております。幹事は、年2～3回の幹事会を開催して、運営委員の選出にあたりるとともに、運営委員会の活動に協力しています。卒業年次ごとに学科、専攻から選出された回生幹事は、草上会活動に協力しています。

草上会の活動は、発足当初より会則に謳われている通り、会員相互の親睦、母校支援、社会貢献を3つの柱に行っています。

会員親睦

年1回の総会を開いて、予算、活動等の承認をいただくとともに、講演・懇親会では会員の皆様との親睦を深めております。日帰りツアーでは、会員相互の親睦を兼ねて、近郊の名所旧跡巡りをしています。また、会報誌「草上会たより」を年2回発行、桜友会報「草上会ページ」を編集等で、草上会の情報を提供しております。



日帰りツアー 迎賓館見学 (2018年)

母校支援

学生さんを支援・協力する形で、4月の「雅祭」(現役学生による、新入生歓迎の催し)に茶菓の提供をしながら参加して、ご入学のお祝いと、草上会活動のPRを行っています。10月の「和祭」には参加の形で、バザーやサロン等を開催しております。また、母校支援として、毎年30万円の女子大指定寄付をしております。



雅祭に参加 (2019年)

社会貢献

毎年、新宿区社会福祉協議会に車いす3台等とフキン200枚を寄贈しております。このフキンは、会員の皆様からご寄付頂いたタオルを、ボランティア活動して下さる会員有志が手縫いで作成したもので、社協関連の施設で大変喜ばれております。会員から提供された使用済み切手を、日本キリスト教海外医療協力会(高田馬場)に持参協力しています。また、災害発生時には、被災地域への寄付を募り送金するとともに、会員の皆様に、電話、はがきでお見舞いをして状況把握に努めています。



新宿区社会福祉協議会に車いす等贈呈 (2018年)

今後、新型コロナウイルスの収束を願うとともに、草上会活動が1日も早く再開できますよう心より願っております。

令和3年1月

安堂 洋子

学生総合補償制度のご案内

学生・こども総合保険

キャンパスライフを送る備えとして、ご加入を是非ご検討ください。

団体割引

15%

保険期間

2021年4月1日午後4時～2025年4月1日午後4時
(新1年生の場合)

※2～3年生の方も中途加入は可能です。ご希望の方は、下記代理店・扱者までご連絡ください。

学習院女子大学・学習院大学にご在籍されている方の制度です。

学生総合補償制度の3つのポイント

Point

1

学校法人学習院が保険契約者となる団体契約で、
『**団体割引15%**』が適用されます!

契約者が
学校法人学習院
だから安心!

Point

2

疾病入院補償では**コロナウィルスによる入院**も
補償対象となります!

病院への入院の他、医師の指示のもと自宅やホテルでの
療養も補償!

Point

3

他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりするなどして、
法律上の賠償責任を負った場合に補償します!!

示談交渉
サービス付
(国内)

東京都、埼玉県、神奈川県では
自転車利用時の賠償責任保険の加入が条例で義務化されています。

パンフレット・お申込書類は、ご入学手続き書類とともに皆さまにお配りしております。

もしお手元がない場合は、ご送付いたしますので下記代理店・扱者までご連絡ください。

このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細は商品パンフレットをご覧ください。

お問い合わせ先

【代理店・扱者】

株式会社学習院薬々会(担当:岩田)
〒171-0031 東京都豊島区目白1-5-1
TEL:03-5979-7767

【引受保険会社】

三井住友海上火災保険株式会社

01

久能祐子氏による特別授業(キャリア支援部後援)を開催

令和2年12月9日(水)「パラダイムがシフトする時」と題して、キャリア支援部後援による「特別総合科目Ⅲ(国際企業)」特別授業を開催しました。

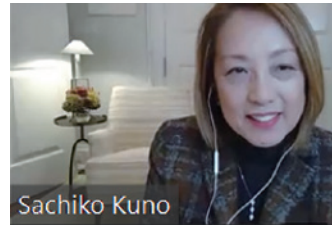
当日は、Zoomによる遠隔授業となり、講師の久能祐子氏(S&R財団理事長、京都大学経営管理大学院特命教授)は、米国のワシントンD.C.より講演をしてくださいました。

久能氏は、2015年のForbes誌で「米国自力成功女性50名」の唯一日本人として選ばれた女性リーダーであり、科学者として自ら研究した新薬を携えて米国に渡り、ビジネスで大きな成功を収められた方です。

「『リスクを取ることが怖くなかったのか』と若い研究者に聞かれた時、山が見えていたから怖いと思わなかった」とおっしゃって

いた久能氏、講演の最後に「よりよい世界を作るために、貴方の創造的ポテンシャルをUnleash(解放)しましょう」と学生に向けて熱いメッセージを発信してくださいました。

学生にとって、グローバル社会の中で「どのように生きるか」を考える、素晴らしい機会となりました。



02

2020年度 学習院女子大学 学生表彰 表彰者一覧

標記の件について、以下の団体および個人の方が表彰されました。

団体	とうがらし女子	特許庁主催「全国地域ブランド総選挙」において決勝戦に進出し、新宿内藤とうがらしの魅力を全国に向けて発信するとともに、今後の内藤とうがらしの可能性を発表し、優秀発展賞を受賞したため。 (優秀発展賞/決勝戦9チーム)
個人	内藤 優子 (きもの文化部) 日文2年	2020年「日本の心と美の祭典全日本さきの装いコンテスト世界大会」において、第1位(実質3位)の優秀な成績を収めたため。 成績/出場団体(人)数 3/12名 全国6地区上位者による※コロナ禍により出場者限定
個人	永田 綾 日文2年	第69回 回瀾書展、第68回 回瀾書展(一般かな)において特選、第37回 産経国際書展において入選(U23かな部)の優秀な成績を収めたため。 成績/出場団体(人)数 第69回 回瀾書展: 特選/51名※1/20~東京都美術館展示 第68回 回瀾書展: 特選/92名 第37回 産経国際書展 約半数入選/5119点
個人	馬 陸辞玉 国コミ1年	「学習院女子大学長杯留学生日本語スピーチコンテスト」において優秀賞の成績を収めたため。 成績/出場団体(人)数 優秀賞/10名
個人	不破 夕里 国コミ4年	国家公務員総合職試験(経済)に合格したため。
個人	三上 優 国コミ4年	最難関試験である公認会計士短答式試験に1年数か月での合格を果たしたため。

03

オール学習院の集い(令和3年4月18日)の開催中止のお知らせ

令和3年4月18日(日)に開催を予定しておりましたオール学習院の集いは、新型コロナウイルス感染症の国内感染状況の終息が見通せず、また今後、感染再拡大の懸念

もある状況を受け、開催中止を決定いたしました。本集いを楽しみにしておられました方々には、ご期待にお応えできませんでしたことに対し、深くお詫び申し上げます。



日本を学ぶ、
世界を知る、
英語で伝える。



学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

TEL 03-3203-1906 FAX 03-3203-8373

URL <https://www.gwc.gakushuin.ac.jp>